

(対象事業：~~地域連携強化事業~~・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
・国際交流拠点形成事業)

事業名：北摂 戦国探検隊

事業者名：北大阪ミュージアム・ネットワーク実行委員会

(代表館：関西大学博物館)

住所：大阪府吹田市山手町3丁目3番35号 関西大学博物館

TEL：06-6368-1171

FAX：06-6388-9928

HPアドレス：<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/KOMNET/komnet.html>

連携館等：吹田市立博物館・池田市立歴史民俗資料館・高槻市立しろあ歴史館・茨木市立文化財資料館、43 北大阪ミュージアム・ネットワーク連携館

主な事業実施場所：吹田市立博物館、高槻市立しろあ歴史館、高槻市教育会館、池田市城山町一帯、伊丹市伊丹1～3丁目一帯、豊中市原田元町～曽根南町～服部南町～浜1丁目、三島郡島本町桜井1丁目～広瀬3丁目～山崎1丁目～京都府乙訓郡大山崎町竜光一帯ほか

事業期間：平成21年7月1日～平成22年3月15日



関西大学博物館

1. 館の使命と本事業の関係

北大阪ミュージアム・ネットワークは、大阪府の北部に位置する、能勢町・豊能町・池田市・箕面市・豊中市・吹田市・摂津市・茨木市・高槻市・島本町の7市3町に所在する博物館園が連携しつつ、地域の文化資源の整備に積極的に取り組み、博物館活動の充実と活性化をはかり、地域文化の発展に寄与することを目的に、平成17年度に活動を開始した。平成19・20年度には文化庁芸術拠点形成事業（ミュージアムタウン構想の推進）の採択を受け、各種の連携事業を展開してきた。平成21年度は、ネットワーク加盟館で初めて取り組んだ共同開催展を舞台に、そこに集う市民や歴史研究団体との企画事業を展開することによって、ネットワークの機能をさらに強化することを目的に、さまざまな市民参加事業を企画した。

2. 企画内容

①事業目的

平成21年度は、池田・吹田・高槻市域の3館が行う秋の共同企画展をキーに、加盟各館の支援を受けつつ、各市の歴史市民団体と協力して事業を展開することにより、館園と市民が一体化した、歴史学習を行うこととした。

事業の内容は、館が開催する秋季特別展の地域性と歴史性をキーに、館園と市民が一体となった歴史学習事業であり、市民が主体となったシンポジウム、講演会、現地見学会、展示解説ツアーなどを開催した。

②事業概要

- 1 冊子「北大阪ミュージアム・ネットワーク2009—北摂 戦国探検隊—」の刊行
A4版・8ページ・印刷数20,000部を刊行、加盟48館園、及び関連機関に配布した。
- 2 市民事業「北摂 戦国探検隊」の実施
 - 2-1 市民シンポジウム「北摂 戦国探検隊」の実施（於 高槻市教育会館）
 - 2-2 歴史講演会の開催
 - 2-2-A 講演会「池田氏と池田城」（於 旧池田市立城山勤労者センター）
 - 2-2-B 講演会「吹田城を探る」（於 吹田市立博物館）
 - 2-2-C 講演会「北摂の戦国時代と高山右近」（於 高槻市教育会館）
 - 2-3 現地見学ツアーの開催

- 2-3-A 原田城と今西氏屋敷（於 豊中市原田・曾根・服部一帯）
- 2-3-B 有岡城跡と伊丹郷町（於 伊丹市伊丹・北本町一帯）
- 2-3-C 山崎合戦を歩く（於 島本町桜井・広瀬・大山崎町山崎一帯）
- 2-4 展示解説ツアーの開催（於 吹田市立博物館・高槻市立しろあと歴史館）

3 事業実施報告書の刊行

A4版・38ページ・印刷数800部、加盟48館園、及び関連機関に配布した。

3. 事業実績

（1）事業の主な内容及び日程

平成21年

- 8月 1日 平成21年度実行委員会規約を決定、事業を確定。
- 8月 10日 加盟48館園に対して、事業チラシを一斉に配布、事業を周知するとともに、参加を呼び掛ける。
- 8月 29日 池田市立歴史民俗資料館において、3市共同企画展「北摂の戦国時代」が開幕。
- 9月 19日 歴史講演会「池田氏と池田城」を開催、引き続き池田城跡の見学会を行う。
- 10月 10日 吹田市立博物館と高槻市立しろあと歴史館で、「北摂の戦国時代」が共同開催される。
- 10月 17日 池田市・吹田市・高槻市で活動する市民歴史研究団体・文化財ボランティアの3団体が、戦国時代史の専門家を交えて、シンポジウム「北摂戦国探検隊」を開催。3市民団体が各1名の発表者を登壇させ、発表を行う。
- 10月 24日 講演会「吹田城を探る」を吹田市立博物館で開催。
- 10月 31日 講演会「北摂の戦国時代と高山右近」を、高槻市教育会館で開催。
- 11月 7日 歴史ウォーク「戦国の城跡を巡る一原田城と今西家屋敷」を豊中市で開催。
- 11月 8日 吹田市立博物館・高槻市立しろあと歴史館間に、シャトルバスを運行し、両館で展示解説会を開催。
- 11月 21日 歴史ウォーク「戦国の城跡を巡る一有岡城と伊丹郷町一」を、伊丹市で開催。
- 11月 28日 歴史ウォーク「戦国の城跡を巡る一山崎合戦を歩く一」を、島本町から大山崎町にかけて、開催する。
- 11月 29日 3市共同企画展「北摂の戦国時代」が閉幕。
- 12月 16日 大阪市北区大阪大学中ノ島センターにおいて、文化庁事業報告会が開催され、市民シンポジウムを中心に、事業の経過報告を行う。

平成22年

- 1月 7日 事業報告書及び広報冊子の編集を開始する。
- 2月 28日 事業実施報告書及び広報冊子「北大阪ミュージアム・ネットワークー北摂戦国探検隊ー」の印刷が完了し、一斉に48館園に配布する。

(2) 参加者の数

参加者人数	延べ 829 人
内 訳：	
講演会「池田氏と池田城」	72 人
市民シンポジウム「北摂 戦国探検隊」	119 人
講演会「吹田城を探る」	115 人
講演会「北摂の戦国時代と高山右近」	227 人
歴史ウォーク「戦国の城跡を巡る一原田城と今西氏屋敷」	55 人
歴史ウォーク「戦国の城跡を巡る一有岡城跡と伊丹郷町一」	60 人
歴史ウォーク「戦国の城跡を巡る一山崎合戦を歩く一」	47 人
展示解説ツアー	134 人

(3) 事業により作成した印刷物等

チラシ「北摂戦国探検隊」A4 版・両面刷・カラー・印刷数 30,000 枚

事業実施報告書「北摂戦国探検隊事業実施報告書」A4 版・38 頁・カラー・印刷数 800 部

広報冊子「北摂戦国探検隊」A4 版・8 頁・カラー・印刷数 20,000 部

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

特になし（3 館連携特別展示に関しては、1 件の紹介記事あり）

○テレビ、関連誌等

秋季特別展「北摂の戦国時代」のオープニング・イベントとして実施した「稲富流古式砲術演武」については、10 月 17 日のNHK正午のニュースで放映。



4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

池田・吹田・高槻の 3 市にまたがる館園が実施した、平成 21 年度の秋季特別展「北摂の戦国時代」は、北大阪ミュージアム・ネットワークとして初めて取り組んだ共同開催企画展であった。3 館の学芸員が、その前年度から協議を続け、地域に関わるひとつのテーマを、協同して企画し、移動展・共同開催展という形で、長期にわたって、広く地域市民に歴史展示を提供するという、ネットワークの根幹を示した事業であった。

この広域共同開催展というまたとない事業展開をベースに、文化庁の美術館・博物館活動基盤整備支援事業の採択を受けて、市民を積極的に博物館活動に取り組み、市民と地域博物館園の一層の連携強化を進める目的で開催したのが、平成 21 年度の事業であった。

なかでも、最も入念に準備を進めたのが、平成 21 年 10 月 17 日に高槻市教育会館で開催された「シンポジウム北摂戦国探検隊」であった。広域事業という背景を受けて、3 市で活動する各々の市民研究団体が一堂に会して、専門家のご指導のもと、講演・討議を行ったが、普段はどうしても身内の成果発表に終始しがちな市民団体が、相互に刺激を受けつつ、かつ、専門家を交えつつ行われた発表や討議は、時間を忘れるほど精力な討論が展開され、大きな成果となった。事業実施報告書にもあるように、発表者は全て、準備に怠りなく、相応に緊

張をもって登壇され、そして手ごたえ十分であったと、回述されている。

その他の講演会、現地見学ツアーなどは、従来もこのようなスタイルの事業は実施してきたものであるが、広域連携の元に、企画され、広報された事業は、はっきりと分かるほど多くの、しかも広域からの応募者があり、盛会であった。ある講演会は、2 倍の応募者をさばくため2回に分けて学芸員が連続講演を行ったり、現地見学ツアーでは多くの抽選漏れのため、参加できない市民が発生するなど、予想を超える参加者があった。48 館園を広報媒体とした宣伝効果は、はっきりと参加者の数値に現れている。

その反面、館をもたない市域での無反応さが顕著に現れたのも事実で、とにかく小さくても施設の整備をすすめることが必要であること、そしてこのような経験を今後も続けて、各館園のもつ特性を相互に理解していくことが、今後のネットワークの継続的な活動につながっていくことを確信した。



発表する池田郷土史学会員



発表する吹田郷土史研究会員



発表する高槻市文化財スタッフの会会員



シンポジウム北摂戦国探検隊 2009/10/17



有岡城跡の説明風景



有岡城跡・伊丹郷町を解説する案内ボランティア